

6月定例市議会

国民健康保険税条例を改正
納期を六期から七期に

六月定例市議会（第二百六回議会定例会）が六月十七日に開会、二十七日までの十一日間の日程で開かれ、昭和六十三年度南国市一般会計補正予算など九議案を可決、農作物の無制限な自由化に反対し安全な食糧確保を求める意見書など五つの意見書を採択しました。

市政報告

議会の開会にあたり、市長は四月から六月までの市政の経過と現状を次のように報告しました。

昭和六十二年
決算見込み

一般会計は一億九百七十五万円の黒字であるが、翌年度への繰り越し分を差し引いた実質収支は八千三百六十六万三千円の黒字。このうち財政調整基金として四千六十八万二千円を積み立てたので、翌年度繰越金は四千六十八万一千円となる。前年度と比べ、実質収支で約一億三千五百万円の減となっているが、これは普通建設事業への積極的な財源充当による結果であると考える。今後の一般会計の財政運営は、ある程度の好転はあ

ったとしても退職手当や人件費の増加、開発公社への支払いなどのため、いっそうの引き締めが必要であると考えている。

国民健康保険特別会計は九千五百三十八万四千円もの黒字となった。前年度に比べ約九千九百万円の増加となっており、剰余金の二分の一以上を財政調整基金に積み立てる。下水道特別会計は収支ゼロとなっている。六十二年から施行した新市街地下水道（十市バクタウ）施設関連により、決算規模は十四億七千二百一十六万六千円となり、前年度と比べ二億八千六百の伸び率となった。

住宅新築資金等貸付事業特別会計は五千四百五十八万六千円の赤字となっており、前年度より一千八百五十万五千円赤字が増加している。この原因は貸し付け金の未返済によるものであり、今後はこの回収

に努力すべきであると考えている。老人保険特別会計は実質収支で一千三百五十一万二千円の赤字となっており、医療費交付金等の未収入特定財源の精算交付を考慮した実質収支はゼロとなる。

潮見台ニュータウン

六十四年度からの売り出しを目標に開発造成中である。行政界については分割を避けるべきだとする南国市と分割案を基本とする高知市側で折衝中であるが、遠からず結論が出る見込みだ。

同和対策事業

小集落地区改良事業は地区住民の協力により比較的順調に進んでいる。野中地区改良住宅建設事業については、六十二年度繰り越し分八十八戸と本年度事業分八十六戸、計百七十四戸の建設を計画している。現在繰り越し分約八〇戸、本

年度分一四戸は発注を終えている。また、前浜地区八戸、東崎西部五十戸の繰り越し分も発注し、年内完成を目指している。

なお、議会をはじめ市民の皆さんの協力により、前浜地区において小集落事業における良好な住環境の形成に努力したことにより、全国市街地再開発協会から表彰された。これを契機に六十三年度末には小集落地区改良事業の進捗率が八七％に達するようにいっそうの努力をする。

廃棄物処理施設

恒久的な尿処理施設、廃棄物処理施設の建設は、市の重要な行政課題である。他の公共施設整備と密接に関連しているため、分野で事前に調整を図り、関係住民の理解と協力が得られるよう計画を立案、推進できるように市内に「廃棄物処理施設立地対策委員会」を発足させ、検討させることにした。

農業問題

本年度の転作目標面積は前年度と同様二千三百四十町と定められ、推進に努めた。五月三十日現在の転作等実施計画では目標を達成し、引き続き水田農業確立のための各種事業計画を策定中である。

国は、三度目の過剰米処理対策

が必要になったため本年度より二年間で米受給均衡化緊急対策を実施することになった。そこで、県農協中央会、関係六農協を中心に他用途利用米及び米の消費純増計画を立てて取り組みをしている。行政として米を中心とする農業をめぐる厳しい情勢に対処し、農業者、農業者団体と一体となった取り組みを強めていきたいと考えている。

教育施設

六十三年度事業として予算化した義務教育施設並びに社会教育施設については事業設計等も順調に進んでいる。白木谷小学校プールは八月完成をめどに発注済みである。

交通問題

瀬戸大橋の開通により二十世紀に向けて中、四国の産業、経済、文化等の飛躍的な発展が望まれる。その実現のためには交通体系の整備が急がれる。四国横断自動車道南国伊野間は三月三十日に路線発表が行われ、南国市でも五月十九日から南国インターチェンジ以西の岡豊地区の沿線四カ所で事業説明会が開かれた。昭和七十年代初めの開通を目指して着実に計画が進行していくと思われる。

一般質問

六月定例市議会の一般質問は二十一日と二十二日の二日間行われ、山本（弘志）、山崎、田島、竹内、福田、小沢各議員が空港問題や福祉問題、三十周年記念事業について執行部の考えをたしました。その主な内容は次のとおりです。

実施計画についての決意は

■南国市総合計画のなかの実施計画は、各課の将来の方針や事業計画を相談しながら進めていくものであるが、膨大な事業計画とその実行となる予算要求の調整に大変苦労している。市の将来像について理想を掲げて取り組んでいるが、福祉や教育、文化の向上など難しい問題もあり、六十五年度までを第一期とする三か年計画もまだ具体案が公表できるところまでいっていない。処理場もようやくめどがつかかっており、文化会館三十周年記念事業などを含め、鋭意取り組んでいるのでそのうち概要が現れてくると思う。

■高知空港拡張についての考えは、ジェット化は当然なされなければならぬことであつたので一生懸命取り組んだが、今この空港を国際空港にするということについてはもう少し県の話聞いてみて考えたい。空港拡張ということになると周辺は相当広範囲にわたって耕作できなくなるが、当該地域はほとんどが専業農家であるということだ。また騒音もいっそうひ

どくなる。第六次空港整備計画の国の全体の動向、県の熱意、メリットなども聞いてみたいが、県からの連絡はなく、こちらから聞くことも控えている。

■阿佐線はどのような形になるのか。また、市内の商業の活性化のために利用してはどうか。

■南国市内へどのような形で布設されるかというのは以前から問題になっていたことであるが、盛土か高架かについてなお特別委員会を検討していただきたい。

商業の活性化に利用するというものについては、地域の問題であるから簡単に結論は出せないが、交通の要衝は昔から最も市街化しやすいところであり、可能性があるならこれを一つのきっかけとして検討していきたい。

■三十周年記念事業に対する現在の取り組みは、

■記念行事の内容についてはまだ細かい点は詰まっていらないが、庁内に三十周年企画実行委員会を設置して取り組みを進めている。基本的には四万八千市民総参加のもとに記念事業を実施したいと考

えている。事業の構成としては、式典、祝賀会、映画の制作、イベントの開催、出版を考えている。さらに記念施設をどうするかについて取り組んでいる。

■文化会館の構想についてはどうなっているのか。

■文化会館の必要性は十分認識している。小学校の改築を優先させるために現在まで取り組まなかったが、三十周年には最もふさわしい事業であると思う。今年予算の計上を調査費のみにとどめたのは、場所が決まらないためである。場所が決まらなければならぬので、年内に場所を選定したい。

教育委員会としては本年度中に文化会館構想策定委員会（仮称）を作つて場所の選定も含めて検討、来年の三十周年には設計に持ち込みたい。委員会の設置のための必要経費は九月議会です算化を求める。構成メンバーは市議会議員の代表、学識経験者、各種団体の代表者、市の職員など十五人程度としたい。

■農道や生活道の改修について予算の増額を。

■生活道については県事業を導入し、地元にも負担してもらいながら実施しているが、県の格が非常に少なく、迷惑をかけているのが実情である。そこで市単事業について予算編成時に検討したが、

受益者負担の問題について合理的な案を立てることができなかったため、現在担当課において検討中である。それが終われば次期限られた財源ではあるが取り組みたい。

■環境問題の清掃作業に際して側溝の泥除去ができなかった現状をどう考えているのか。

■側溝の泥除去については事前に対応策を協議したが、土地の確保ができなかったため、やむを得ず泥除去を遠慮してもらった。市の不燃物処理場は容量六千立方メートルであり、新処理場完成まで毎月のごみ処理や不法投棄に対する処理を完全に行わなければならないという事態になっている。ただ側溝は幅員も狭く、浅いので、泥除去は幅員も狭く、浅いので、泥除去

可決された主な議案

■昭和六十三年度南国市一般会計補正予算（歳入歳出予算）規模は三百三十一万九千円で、財源は六十二年決算に基づき繰越金。内容は阿佐鉄道株式会社出資金四十万円、改正田、十市地区の河川災害復旧の測量設計業務委託料二百九十一万九千円。

■南国市国民健康保険税条例の一部を改正する条例（地方税法の改正に基づき賦課限度額などを引き上げる。納期については現行の六期から七期とし、各期ごとの税額を引き下げる。

■南国市固定資産評価審査委員会委員選任の同意について（南国市固定資産評価審査委員会委員郷久保幸重氏の任期満了に伴い、引き続き同氏を選任する。

■南国市職員の勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例（本市職員について交代で四週間に二回の上曜日を休む。

六月定例市議会の議事録は、九月以降市立図書館で閲覧できる予定ですので利用してください。